

## 令和6年度 宮崎市安井息軒記念館特別講座のご案内

# 息軒会読Ⅱ 『弁妄』 詳シク解セツ

昨年度、安井息軒の『弁妄』5篇を実際に読んで詳しい解説を加えていく講座を全8回に渡り実施しました。今年度は引き続き第9回から第11回までを実施します。『弁妄』に合刊された下記2編を3回に分けて読んでいきます。

■講師 宮崎大学特別准教授 青山大介氏

■日時 13:30～15:30 (全3回) 毎曜日曜日です。

第9回	7月21日	「鬼神論」(前半)
第10回	7月28日	「鬼神論」(後半)
第11回	8月25日	「与某生論共和政事書」

■場所 宮崎市安井息軒記念館・研修室

■定員 40名(要予約・先着順)

■申し込み・問い合わせ先

電話:0985(84)0234

FAX:0985(84)2634

Email:sokken.yasui@pic.bbq.jp



HPへ



### ●補足説明

「会読」とは読書会のことです。江戸時代には何人かで集まって同じ書物を読み、内容について議論したり翻訳したりする集まりを「会読」と称していました。また「弁妄」とは、儒者が宗教を批判する文章のタイトルとしてよく使う言葉で、「邪教の妄言を論破する」という意味です。

明治政府がキリスト教を解禁した明治6年(1873)2月から4月にかけて、安井息軒は『教義新聞』に「弁妄」(一)～(五)を発表し、キリスト教を厳しく批判しました。儒者によるキリスト教批判はそれ以前にもありましたが、多くは印象批判の域を出ませんでした。しかし息軒は『聖書』(おそらく漢訳本)をきちんと読み込んでその記述を逐一引用したうえで、その論理的矛盾や倫理上の違反を指摘している点に特徴があります。その水準は高く、評論家でキリスト教徒でもあった山路愛山(1866-1917)が「18世紀にフランスの哲学者たちが行った純理的・懐疑的『聖書』批評と同じもの」といい、当時の東京大学哲学科教授であった井上哲次郎より正確だと評価したほどです。

「弁妄」五篇は島津久光の序文を得て、功利主義的宗教論を説く「鬼神論」とアメリカとフランスの共和政を批判的に分析した「与某生論共和政事書」と合刊してその年の夏に出版されました。息軒はこれらを漢文——東アジア共通の学術言語——で書いていたのですが、久光からの「ぜひ庶民にも読ませたい」という要請に応じて、弟子の安藤定に和訳させて年末に『弁妄和解』として刊行しました。この和訳は広く読まれ、芥川龍之介も「安井息軒の「辨妄和解」は面白い本だと思ふ。これを見てみると、日本人は非常にリアリスチックな種族だと云ふ事を感じる」と書いています。